

#### 月田秀子の昨日、今日、明日…

3月1日放映の「世界ふしぎ発見」を見た。“魂の歌ファドを聴け”と言うタイトルには参った。ファドと言う文字が市民権を得てきた感のする昨今、嬉しいと同時に、自分が大切にしてきたものを人に取られてしまうような一抹の寂しさも感じる。

番組の中で、アマリアについてのインタビューに答えているカルロス・ゴンサルヴェスのなつかしい姿を2年ぶりに見た。アマリアのギタリストとして、1970年の大阪万博以来、日本のファドファンには、おなじみのポルトガルギターの大御所だ。「涙「私の中のファド」等のアマリアの詩に曲をつけたりもしている。昨年リスボンを訪れた時は、長年出演していた「アデガ・マシャード」にその姿はなかった。ポルトガルギターの後進を育てる為に、「ファド・ポルトガルギター博物館」で教えていると言う噂を聞いた。アマリア亡き後、表情には出さなかったが、喪失感がおおきかったのだろう。彼にとって、真のファディスタは、「アマリア・ロドリゲス」その人しかいないのだ。「老けたな」と思った。欧米系の人には、一気に老け込む。若い頃の面影がなくなってしまうほど。その点、日本人は、年をとっても、さほど変わらない。個人差はあるが。

3月6日に、出演したNHKBS2の番組が放映され、そのビデオの録画を送ってくれた福島之母から、暗い声で電話が入った。私もそうだが、感情が声に出る人だ。「どうしたの？何かあったの？」最近、そういう時は決まって、知人が病気になったり、亡くなったりの知らせなのだ。老いて行くにしたがって、そんな話題も多くなる。「福島民報に、松田美緒ちゃんの記事が大きく載ってる」。突然のライバルの出現に動揺したのだろう。先だって、その記事を担当した記者から、彼女へのコメントを求められていたので、驚くことでもなかった。いずれ日本にもファドを歌う新星が出てくるのは当たり前だし、今までの、「日本でただ一人のファド唄い」から引き摺り下ろされる日がくるのは、覚悟していたことだ。松田美緒さんに会った時から、そのことは確信していた。

初めて彼女に会ったのは、3年前の京都の巴里野郎であった。私のライブを聴きにに来てくれたのだ。やっと再会できた肉親のように、私達は抱き合っ喜び、ファドについて語り合った。訊くと彼女の母親と同じ年だという。

彼女の若さと才能は私には眩しい。羨望に近い感情に苛まされたのも事実だ。いつのまにか周囲の思惑が、私たちの距離を離していった。「後進を育てる」なんて偉そうなことはできないが、彼女の布石になれたらと思っている。ファドの道を、切り開いてきた自負が私にはある。まあ、彼女には彼女の道があるのだから、そんなことはどうでもいい。ただ、同じファドに魅せられたもの同士、仲良くやっていけたらいいなと思っている。

こんなことを言うのは、私のファンの人たちにも、気兼ねなく彼女の歌を聴いて欲しいし、いいなと思ったら、心から声援を送って欲しいと思うからだ。

以前、熱心にライブに通ってくれる某氏から、一本のカセットテープをいただいたことがある。なんでも、友人からコンサート

に誘われたが、月田さんに悪いと思って行かなかったという。そのコンサートのライブテープには、ファドのレパトリーが何曲か入っていた。「そんなに立てなくてもいいのに」と笑い飛ばしたが、内心ちよび嬉しかった。そんな律儀なファンもいてくださるのだ。

アマリア・ロドリゲスのファド、彼女の声との出会いがあって、ファドの道に踏み込んだ私だが、動機はもう一つある。それは、誰もやっていないことだったからだ。先駆者の道は険しくはあるが、世間の騒音からは、かけ離れていた。周囲のことを気にせず、ひたすら歩き続けた。歌いつづけた。ファンに支えられ純粋培養してきた私のファドが、これから、世間の中で、どう育てゆくのか、これから月田のファド人生の第二幕が、開こうとしている。そんな気がする。

そんな矢先、「戦場のピアニスト」という映画を見たことは、私にこれからの人生のヒントを与えてくれたように思う。

第二次世界大戦下、舞台は、ナチス・ドイツの支配下、ユダヤ人隔離政策が強行されてゆくポーランド。ゲッソーから脱出、生き延びた実在のピアニスト、ウラディスワフ・シュピルマンが主人公。彼が生き延びた影には、たくさんの死んでいった人たちがいた。ユダヤ人、反ナチ戦線の人たち、そして、隠れ家に潜む主人公シュピルマンを助け、彼のピアノに涙したドイツ将校。隠れ家の部屋の片すみに、弾く主を失ったピアノを見つけた彼が、音を出さずに、指を鍵盤の上に浮かして弾くシーンでは、思わず息を詰めて、「音よ、せめて心の中に鳴り続けよ」とばかりに両の手の指を組んでしまった。

第二次世界大戦は、被害者ユダヤ人、中国人、朝鮮人にとつての悲劇であると共に、加害者、侵略者にとつての悲劇でもある。延いては、人類全体の悲劇だった。戦争という怪物を生み、横行させてしまった人類の。

戦争は他人事でも、過去のことでない。

戦場は、戦火の渦中にあるイラクにも、戦火の止んだと言われているアフガニスタンにも、パレスチナにも、朝鮮半島にも、そして、日本にもある。私欲に魅入られた人たちの心に、また、弱者達の心の中に。人を踏み台にして、のし上がろうとする人たちの心の中に。人を妬む心の中に。そんな時、人の痛みを思いやる心は、正義、権力という名のもとに、踏みにじられ、いつしか人の心から追いやられてゆく。

人との諍いの渦中、こんな狭い土俵で、戦ってられるかと、いたたまれなさの中で、そう思うことがある。私利私欲にとらわれていた自分に気がつく。狭い心の自分に気がつく。私は、空を見上げる。死んでいった人を思う。私は、小さな土俵を下りる。私には、戦う相手を選ぶ自由がある。

本当に、戦わなければならない相手が誰、もしくは何なのか、見極める目をもたなければならない。そして果敢にそれと戦う、人間としての使命がある。

映画を見終わって、都会の喧騒の中を歩きながらそう思った。



## ポルトガル料理店『マヌエル』へ馳せる夢

2月13日、NHKBS2「流行歌100年」の収録の為、野上・上川両ギタリストが上京した。その前日、東京渋谷区松涛にあるポルトガルレストラン「マヌエル」でのファドライブが高橋オーナーのご好意で、実現した。

昨年3月に本格的ポルトガルレストランとしてオープンした店だが、マカオのミリタリークラブの元料理長、人気シェフ、マヌエル・ペナのレシピを忠実に生かしたポルトガル料理は好評で、店はいつも一杯だ。月田も試食させていただいたが、美味しいし、しかも、リーズナブルな値段、そこにも人気の秘密がある。

オーナーの高橋氏は、四谷の上智大学の近くに、2号店を出店する計画を、着々と進めている。先日ポルトガルから帰国間もな



2月12日、「manuel」でのライブ

い高橋氏とお会いした。今度のお店は、本格的な「CASA DO FADO」にしたいという。まがい物でない店にしたいとの思いに、自分で店を作ることは出来ない月田は、最大限の協力を惜しまないと、答えた。ファドを唄いつづけて20年。やっと、納得の行くところで唄える。ポルトガル料理があり、ワインがあり、青タイ(アズレージョ)があり、ポルトガルを愛する人たちがいる……。

今年の初夢は正夢だった。好きなことが出来る、どんなに貧乏でもいい。それでもって、人が喜んでくれたら、つかの間でも安らぎの時を過ごせてもらえたら……。

高橋オーナーと夢を語り合いながら、“夢見る夢子”になってしまった月田。夢を実現する為にも、食い扶ちを見つけなければ。店で下働きをしながら、ポルトガル料理を覚えるのも手かな？もうひとつ、ポルトガルギターを弾く人を、東京で見つけること。それが一番の課題だ。今、ポルトガルギターを弾いている上川保が、大阪からその都度呼ぶ交通費のことを心配してくれている。確かに、負担が大きすぎる。でも、夢の前に、経済的な問題はゼロに等しい。夢をいかに実現してゆくかが問題なのだ。相変わらず、地に足の着かない困った月田である。

## サレケイ企画廃業

1985年のファーストコンサートから、17年間、月田の年末のコンサートを主催してきてくださったサンケイ企画が、今年3月末をもって、解散することになった。95年からの「きまぐれコンサート」をブルーノートで開催することができたのも、サンケイ企画のお陰だ。重い尻を叩かれながら、青息吐息で続けてこれた。一匹狼の月田を、陰から支えてきてくれた心強い味方が、いなくなる。今年の年末コンサートは？きまぐれライブは？月田秀子の行方はいかに……？

小さくてもいいからやる方向で心をくくってます。皆様のご協力を切にお願いいたします。

# cartas

## 日々雑感

唄ってなんだろうと、思う。少なくとも私の目指す歌ってなんだろう。自分で詩を作ってごらん、曲ならつけてあげるからってよく言われる。そういえば、長いこと詩を書かない。悲しみで心が一杯になると、よく書いてた。心がかと熱くなる時詩が生まれた。アマリアは、晩年、たくさんの詩を作ったけど、ほとんど、孤独感に苛まれた末に生まれたものだった。訳すのが辛くなるほど。「涙」「私の憂い」「私の中のファド」等々。

詩は作ろうと思っただけのものではないような気がする。自分の心の中から湧き上がってくる思いを、言葉で表すもの。歌もそうだと思う。思いが声になり、詩にのり、メロディーにのり、リズムにのり、風にのり、人の耳に届き、心にたどりつく。一人の人に、たくさんの人に。その時、歌は、歌い手だけのものではなくなる。聞いた人の心の中に新たな熱い思いを思い起こさせ、その人の中に生きはじめる。そんな歌を唄いたい。そしてそんな歌しか、聴きたくない。

東京で、シャンソンのお店に行って、何人かの歌を聴いた。確かに歌は上手いなと唸らせられる歌手もいた。でも、心までたどり着かない。先日の「流行歌100年」のコンサートでも、名だたる歌手陣の歌を間近に聴いた。さすがに上手いなと思った。でも心に届かない。私の歌が、どう人に聴かれているかは、知る由もないのだが……。

後日その収録ビデオがNHKBSで放映された。これが最初で最後の歌謡番組出演になるかもしれないと、たくさんの人たちに知らせた。テレビのブラウン管に映し出された自分の顔、聴こえてくる声、私ははじめて自分の姿を見た。どうしようもない月田秀子の現実がそこにあった。私は目をおおい、耳をふさいだ。こんなに下手な歌手が、お茶の間に登場していいのだろうか？当分私は、自分の姿のみじめさに、打ちのめされ、立ち上がれなかった。幸い、暖かい友人達のお陰で、見事に立ち上がることが出来た。その励ましの言葉をここで紹介させていただく。

●出張で東京の宿でBS2見ました。鳥肌の素晴らしさでしたね。ああ、聞いて良かった。ではまた。(SH)

●公開録画のコンサートで聴いたのと又違ったあなたが見られて良かったです。

実は同期会で飛びかった名刺等で、たくさんメールのご案内をしました。

「ありがとう、見ます」等のご返事が届いていた手前、公録時のあの臨場感が伝わるかチト心配ではあったんです。でも良い意味で“あっ、こっちの方が良かったかも……”というもありました。

等身大の月田秀子でした。

居並ぶ歌手陣はメディアに出尽くしているせいか、衰えやそれをカバーしようとする無理？が見えてしまっている中、あなたはそれを感じさせませんでした。本当はプロはそれではいけないの

かもしれませんが。等身大でもちゃんとメッセージはガンと伝わったもん。

ウチの母が常々言っております。

「美人は目じりにきれいなしわが出来る」……なんだそりゃ？ しわはしわじゃん、と思っとったんですが、八千草薫（古くてスマン）、吉永小百合、みい〜んなそうなんです、これが！ 月ちゃん、しわ（ゴメン！）きれいだっただ〜っ。というかアップになった時にも等身大でイロッポかった。声も少し震えてた？

もしそうだったら緊張や不安やジャンル違いの戸惑いも又そのまま月田秀子の唄、です。私には。

でも、そのうち堂々としてテレビに映っちゃうようになったら、それはそれでいいんですけど、姉御（笑）（O.K子）

●昨夜の“うたへの讃歌”がっかりしました、本番では2時間半近くあったものを1時間半に編集しているのですが、肝心の“サウダーデ”がカットされていました、悔しい限りです。当日参加出来なかった多くのファンの方たちも期待して居られたでしょうに!! それに本番の時にも思いましたが、月田さんの語りがある曲に入るのが私は好きです。それと分かってはいますがそれでもなお、今回つくづく思いますのは、コンサートはやはりホールで生で聞くのが最高ですね。月田さんご本人に生で聞かせてあげられないのが残念です、私たちばかりが聞かせていただいて申し訳ないような、気の毒なような〜でも変ってあげることはできないよ。これからもライブ活動を中心に生で頑張ってください。（T子）

●今回のNHKBSの大きな舞台はよい経験だったと思います。

出演した歌手群はTVのプロ。どう映るかは知り尽くしての上でのパフォーマンスですから、画面にはまっているのは当たり前。毎日テレビの画面に出ているアナウンサーでさえ、洗練されたタレントの前では素人にみえます。

彼らはTVに出るか出ないかで人生決まるわけで、そこに歌の力量まで求められるという、ある意味別のパワーが必要とされる、TVは残酷なものです。

そこにあなたを入れることは一つの挑戦だったと思います。

そこにいきなり入れる機会を持てる歌手はめったにいません。

けれど、箕面の孝子さんのおっしゃるように、生で聴く音楽ほど強いものではありません。

収録のとき、ライブで圧倒する力という意味では決して他の出演者にひけをとっていません。それは欲目ではありません。月田さんのCDを聴いてもライブビデオを観てもいつも思うことですが、ライブで最も本来持つ魅力を発揮できる歌手だと思っています。

こういう歌手がいるのだという紹介としては、よいきっかけだったと思っています。

これからここでなら必ず毎月聴ける・歌えるという場所が東京に出来ることを祈っています。祈るだけでなく、作りましょう。

それを一緒に見つけられるならそれはあなたが戻ってきた東京に住む者としては、最高の喜びです。（K.R）

“励ましの言葉をありがとう”

## fados canções

私の初恋

poema:Frederico Valério

musica:Nelson de Barros

訳詞:Calde Verde

ああ 叶うものなら  
もう一度二十歳に戻りたい  
あの頃 私は  
あなたをどれほど崇め愛したことか  
啓示を待つ修道士のように  
ひたむきにあなたを見つめていた

ああ 幾たびも口づけを交わした  
バラの花びらのようなその唇  
あなたを待ち焦がれて  
生きていたあの日々  
たとえ世界が終わろうと  
たとえあまたの泉が涸れようと  
あなたなしには生きられなかった

ああ 何という悲しみ  
ためらわずに云おう  
あなたは私の夢を押しつぶす  
邪悪な罪深い存在であったと  
あなたは裏切った  
私が抱いていた至上の想いを

時はあなたの髪に雪を積もらせ  
時は私たちの人生を消し去った  
ああ 叶うものなら  
もう一度目醒め  
もう一度二十歳に戻りたい  
今ひとたび あなたを愛するために

O MEU PEIMEIRO AMOR

Ai quem me dera  
ter outra vez vinte anos.  
Ai como eu era  
como te amei Santo Deus,  
meus olhos pareciam dois Franciscanos  
a esperar do céu que vinha dos teus.

Beijos que eu dava  
ai como quem morde rosas  
como te esperava  
na vida que então vivia.  
Podiam acabar os horizontes,  
podiam secar as fontes,  
mas não vivia sem ti.

Ai como é triste,  
eu dizer,não me envergonho,  
saber que existe  
um ser tão mau,tão ruim  
que era o ombro para os meus sonhos.  
Traiste,o melhor que havia em mim

Ai como o tempo pôs neve nos teus cabelos.  
Ai como o tempo as nossas vidas desfêz.  
Quem me dera  
ter outra vez desenganos  
ter outra vez vinte anos  
para te amar outra vez.



# informação

- 3月企画した「マカオディナーショーツアー」は、応募者が9名で、残念ながら中止になりました。不況、世界情勢に合わせて、準備不足と反省しています。ご応募くださった方々、準備に奔走してくださった皆様にお詫び申し上げます。これにめげず、ファド倶楽部発足10周年を鑑みた楽しいイベントを、企画中です。お楽しみに！
- ぼちぼち、東京でのライブを始めました。慣れない土地でのライブ、集客に頭を痛めています。皆様、お誘い合わせの上ご来場くださいますよう、心からお願いいたします。

## <月田秀子のスケジュール>

4月20日 (日)	「Mu119」横浜・磯子区森		チケット完売御礼
21日 (月)	東京・新橋「蛙たち」 中央区銀座西7-8 コリドー街	tel / 03-3571-4417	*要予約 最寄の駅：JR山手線「有楽町」又は「新橋」 チケット：6,000円 (ワンドリンク付)
問合せ・お申し込み先：tel / 03-3458-9806 (月田秀子ファド倶楽部)			
23日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	tel / 075-361-3535	
最寄の駅：阪急京都線「四条河原町」徒歩2分 開場：19:00 開演：①20:00 ②21:00 ③22:00 (入れ替えなし) チャージ：3,500円			
24日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	tel / 06-6212-2870	
大阪市中央区笠屋町八幡筋角 第二山田ビル4階 最寄の駅：地下鉄御堂筋線「心斎橋」徒歩10分 ステージ：20:00から3回 (入れ替えなし) チャージ：2,800円			
問合せ・お申し込み先：tel / 06-6212-2870			
25日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	tel / 06-6304-1745	
大阪市淀川区西中島4-7-30 最寄の駅：地下鉄御堂筋線「西中島南方」徒歩3分 又は、阪急京都線「南方」徒歩3分 開場：19:00 開演：①20:00 ②21:00(入れ替えなし) 料金：5,000円 (ワイン飲み放題、オードブル付)			
問合せ・お申し込み先：tel / 06-6304-1745			
5月10日 (土)	東京・新宿「シャンパーニュ」	tel / 03-3354-2002	*要予約
新宿区新宿1-34-11-B1 (厚生年金会館向かい) 最寄の駅：丸の内線「新宿御苑」徒歩5分 開場：18:30 開演：19:15 チケット：前売り/6,000円 (ワンドリンク付)			
問合せ・お申し込み先：tel / 03-3458-9806 (月田秀子ファド倶楽部)			
28日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	tel / 075-361-3535	
29日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	tel / 06-6212-2870	
30日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	tel / 06-6304-1745	
6月6日 (金)	東京・小平	tel / 042-343-7482	
東京・小平市民文化会館「ルネこだいら」レセプションホール 開場：18:30 開演：19:00 チケット：3,000円			
問合せ・お申し込み先：tel / 042-347-7211 (小平子供劇場)			
7日 (土)	山梨・河口湖「アルカンシエル」	tel / 0555-76-6662	
自然食料理とポルトガルワインとファド *別紙チラシ参照 (宿泊プランもあります)			
25日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	tel / 075-361-3535	
26日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	tel / 06-6212-2870	
27日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	tel / 06-6304-1745	

## <編集後記>

ベトナム和平会談が始まったニュースを、胸を撫で下ろしながら満開の桜の木の下で聞いた高校3年の春を思い出す。アメリカは又もや、他国を軍靴で荒らすのか。戦争という怪物を、生み出してしまった愚かさよ。わが身ひとつの春はかなしき。

(月田)

月田秀子ファド倶楽部ホームページ  
http://www.fado.jp/

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第38号
- 2003年4月1日発行 (季刊：年4回発行)
- 編集・発行 「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806